

講義コード	1A003011
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2704
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

講義の目的

本講義時では、アスリートを取り巻くさまざまな環境のもとアスレティックトレーナーが知っておくべき諸問題の基礎をスポーツ現場の最新情報とともに学びます。生死に関わる現場に遭遇した場合、遠征や合宿にアスレティックトレーナーとして帯同する場合に必要な医学知識を学ぶことが目的であり、2年次より開講されるアスレティックトレーナー専門科目で学ぶ内容を1年次で概説し、基礎知識の習得を目指します。またグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題発表を行います

到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ現場で対応できる一次救命処置を実施できる。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

授業計画表

授業計画

1. 自己紹介・救急処置 (CRP/AED)①
2. 救急処置 (CRP/AED/RICE)②、アスリートの健康管理①
3. アスリートの健康管理 ②
4. アスリートの内科的障害と対策 ①
5. アスリートの内科的障害と対策 ②
6. アスリートの外傷・傷害と対策 ①
7. アスリートの外傷・傷害と対策 ② (課題の発表と検討1)
8. アスリートの外傷・傷害と対策 ③ (課題の発表と検討2)
9. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画①
10. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画②
11. スポーツによる精神障害と対策
12. 特殊環境下での対応
13. アンチドーピング
14. コンディショニングの手法① (ストレッチング、icing)
15. コンディショニングの手法② (テーピング、マッサージ)

成績の評価

学期末試験、課題の提出と発表にて成績評価します。

自己学習

専門用語が多く出てきますので、事前に次回授業範囲に目を通しておいてください。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー共通科目・JATIトレーニング指導者一般科目に含まれていますので、遅刻・欠席には十分に注意して下さい。当該科目はその養成講座の共通科目『共通Ⅰ-4スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ、共通Ⅲ-10スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ』の内容を含みます。

テキスト

「日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

オフィスアワー

月曜～木曜日

昼休み・16:20～17:00

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ることをおすすめします。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保しますので申し出て下さい。

研究室

研究・診療棟 4階 415研究室

授業用E-mail

yumiko@kansai.ac.jp

講義コード	1A004011
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2705
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

講義の目的

本講義時では、アスレティックトレーナーとして必要なスポーツと心の関係やスポーツに関わる訴訟・法律を学びます。アスリートが効果的な技術習得を行う時、最高のパフォーマンスを発揮する時、モチベーションを高める時など様々な場面でアスレティックトレーナーにも心理学的な知識が必要とされます。また近年スポーツに関わる訴訟が注目されています。ここでは過去の判例をあげ法律に触れることでアスレティックトレーナーとしてリスク管理の必要性を再認識することが目的です。2年次より開講されるアスレティックトレーナー専門科目で学ぶ内容を1年次で概説し、基礎知識の習得を目指します。履修者はグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題発表を行います。

到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ指導者が知っておくべき法律理解。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、スポーツと心
2. スポーツと心 ・スポーツにおける動機付け
3. コーチングの心理 (技能の練習と指導)
4. コーチングの心理 (プレイヤーの個人指導と心理的問題)
5. コーチングの心理 (チームの指導と心理的問題)
(コーチング評価)
6. メンタルマネジメントとは・リラクゼーション
7. イメージトレーニング
8. 集中力のトレーニング
9. 心理的コンディショニング
10. プレッシャー、あがり、スランプの克服
11. 指導者のメンタルマネジメント ①
12. 指導者のメンタルマネジメント ②

- 13. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任①
- 14. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 ②
- 15. スポーツと人権・課題の発表と検討

成績の評価

学期末試験、課題の提出と発表にて成績評価します。

自己学習

専門用語が多く出てきますので、事前に次回授業範囲に目を通しておいてください。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー共通科目・JATIトレーニング指導者一般科目に含まれていますので、遅刻・欠席には十分に注意して下さい。当該科目はその養成講座の共通科目『共通Ⅱ-2 スポーツと法、共通Ⅱ-3 スポーツの心理Ⅰ、共通Ⅲ-6 スポーツの心理Ⅱ』の内容を含みます。

テキスト

「日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ・Ⅲ」

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

オフィスアワー

月曜～木曜日

昼休み・16:20～17:00

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ることをおすすめします。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保しますので申し出て下さい。

研究室

研究・診療棟 4階 415研究室

授業用E-mail

yumiko@kansai.ac.jp

講義コード	1A012011
講義名	スポーツコーチング論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2707
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 寺岡 祐助	指定なし

担当教員

寺岡 祐助

講義の目的

スポーツにおけるコーチングの基本を学び、自身の将来を考え、自己確立する。

到達目標

スポーツにおけるコーチングの重要性を理解する。
自己確立の重要性を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 自己開示について
2. コーチングとは？
3. 自己確立について
4. 自主性・自発性について
5. プレーヤーの在り方
6. 指導者の在り方
7. コーチングの基本
8. コーチングのスキル
9. ミーティングについて
10. モチベーションについて
11. リーダーシップについて
12. チームビルディングについて
13. 自分とコーチングの関連性
14. 自己確立の実施
15. まとめ

成績の評価

授業内レポート
期末試験（レポート）

自己学習

授業内レポートで記載した内容を実行に移すこと。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー・JATIトレーニング指導者一般科目に認定されています。資格受験のために必要な科目になっています。

テキスト

日本体育協会公認共通科目テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ

参考文献

講義中に紹介します。

オフィスアワー

木曜日の午前中

研究室

診療・研究棟 3 階教員室

授業用E-mail

teraoka@kansai.ac.jp

講義コード	1A013011
講義名	スポーツトレーニング論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2708
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 寺岡 祐助	指定なし

担当教員

寺岡 祐助・相澤 慎太・五十嵐 純

講義の目的

スポーツ競技において高い競技力を発揮するためには、トータルなコンディショニングを計画的に実践していくことが不可欠である。コンディショニングとは、競技力を高めるために必要なあらゆる要素を改善および調整していくことであり、体力トレーニングをはじめとして技術や戦術の練習、障害や疾病の予防および対処、食事や休養面の改善、メンタル面の強化、チームの運営・管理など、非常に多くのものが含まれる。

本講義ではスポーツに求められる「体力像」の概念を知り、体力の諸要素を高められるために行うトレーニング全般について学習する。

到達目標

スポーツトレーニングの概略を理解する。

授業計画表

授業計画

1. トレーニングとは何か？
2. 体力とは何か？（行動体力 防衛体力）
3. 体力とは何か？（行動体力の種類と特性）
4. スポーツパフォーマンスと体力
5. トレーニングの原理・原則
6. トレーニング処方
7. ウォーミングアップとウォームダウン
8. トレーニングの種類（形態別分類）
9. 体力要素による分類
10. 指導計画の立て方
11. スポーツ活動と安全管理
12. 対象に合わせたスポーツ指導（中高年者）
13. 対象に合わせたスポーツ指導（女性とスポーツ）
14. 対象に合わせたスポーツ指導（障害者とスポーツ）

15. 発育発達期の身体的特徴
16. 発育発達期の心理的特徴
17. 発育発達期に多いケガや病気
18. 発育発達期のプログラム
19. スポーツバイオメカニクスの基礎
20. トレーニング理論とその方法 (トレーニングの考え方)
21. トレーニング理論とその方法 (筋力トレーニング)
22. トレーニング理論とその方法 (スピードトレーニング)
23. トレーニング理論とその方法 (持久力トレーニング)
24. トレーニング理論とその実際 (トレーニング目標の設定)
25. トレーニング理論とその実際 (トレーニングプログラムの設計)
26. 体力テストとその活用
27. 体力テストとその活用
28. スキルの獲得と獲得過程
29. スキルの獲得と獲得過程
30. まとめ

成績の評価

平常点30% レポート30% 定期試験40%

自己学習

日頃の実践を心がける

履修上の注意

「健康運動実践指導者」「トレーニング指導者」「日本体育協会公認アスレチックトレーナー (AT)」を受験する学生は当科目を履修しなければなりません。

テキスト

『日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』 健康運動実践指導者養成テキスト

オフィスアワー

木曜日の午前

研究室

診療・研究棟 3 階教員室

授業用E-mail

teraoka@kansai.ac.jp

講義コード	1A014011
講義名	スポーツと健康
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1209
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純

講義の目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こしている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また、日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

到達目標

健康や健康づくりを知り、実践できるようになる。
有酸素運動についての正しい知識を身につける。
スポーツによるけがと予防法を知る。

授業計画表

授業計画

1. スポーツとは、スポーツと健康、レクリエーションスポーツ
2. 健康の定義、健康を学ぶ意義、個人の健康と社会
3. ヘルスプロモーション、健康づくり施策について
4. 日本における健康づくり施策について
5. 健康日本21（第二次）の説明
6. 体力とは、行動関連体力と防衛関連体力
7. 有酸素運動と無酸素運動、エネルギー供給機構
8. 酸素摂取量、呼吸商、最大酸素摂取量、運動強度、心拍数、呼吸数
9. 有酸素運動に適した運動①（ウォーキング）、健康づくりとウォーキング
10. 運動強度について、使用する筋、下肢への衝撃
11. 酸素運動に適した運動②（ジョギング）
12. 有酸素運動に適した運動③（エアロビックダンス）
13. 有酸素運動に適した運動④（水泳・水中運動）

- 14. 肥満と減量、スポーツ活動に多いケガや病気(内科)
- 15. スポーツ活動に多いケガや病気(外科)

成績の評価

試験（100％）にて評価。なお必要に応じてレポート提出などを行い、総合的に評価する。

自己学習

学んだことを自分の生活の中で実践してみる。

履修上の注意

理論として理解することは大切なことであるが、それを普段の生活で実践するように心がけること。

遅刻、早退は1/3欠席として計算する。

担当者に伝えずに途中退席した者は欠席とみなす。

（財）健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生および、（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー、「JATI認定トレーニング指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

詳しくは配布資料を参照して下さい。

テキスト

プリント配布

参考文献

「健康運動実践指導者用テキスト」

健康・体力づくり事業財団

「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」

日本体育施設協会

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1A023011
講義名	スポーツ社会学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2706
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

担当教員

中尾哲也

講義の目的

スポーツ社会への関わり方を考える基礎作りをする。

到達目標

様々なスポーツシーンから、今後のスポーツへの関わり方を考えられるようにする。

授業計画表

授業計画

1. スポーツの概要と歴史、文化としてのスポーツ
2. スポーツタレント発掘事業
3. 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり
4. 総合型地域スポーツクラブの必要性
5. 地域における「スポーツ少年団」
6. 社会の中のスポーツ（スポーツプロモーション）
7. 日本スポーツ振興センター、ナショナルトレーニングセンター
8. JOC事業、国立スポーツ科学センター
9. 総合型地域スポーツクラブの運営
10. スポーツ組織の運営と事業
11. スポーツ財団
12. スポーツ指導者としてのあり方を考える
13. 我が国のスポーツ振興施策
14. 広域スポーツセンターの機能と役割
15. まとめ

成績の評価

毎回の授業（映像や講義内容）レポートにより評価します。レポートには、その日に行われた授業内容のキーワードを出して頂きます。

自己学習

様々なスポーツに目を向けてみる。

履修上の注意

提出するレポート用紙（ルーズリーフ可）を個人で準備する。

テキスト

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ」 日本体育協会

オフィスアワー

月～木の昼休み時間

研究室

診療・研究棟4階 (412)

授業用E-mail

nakao@kansai.ac.jp

講義コード	1A027021
講義名	トレーナー見学実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2618
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員

増田研一
吉田隆紀
山口由美子
中尾哲也
寺岡祐助
内田靖之

講義の目的

スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーに必要な技術・能力習得を目的とする見学実習を行う。

到達目標

スポーツ現場における基本的な知識・技術などを身につける。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックトレーナーと倫理
2. 各競技における役割①
3. 各競技における役割②
4. 各競技における役割③
5. 各競技における役割④
6. 各競技における役割⑤
7. 各競技における役割⑥
8. 各競技における役割⑦
9. 各競技における役割⑧
10. 各競技における役割⑨
11. 各競技における役割⑩
12. 各競技における役割⑪
13. 各競技における役割⑫
14. 各競技における役割⑬

15. 各競技における役割^⑭
16. 各競技における役割^⑮
17. 組織の運営と管理^①
18. 組織の運営と管理^②
19. 組織の運営と管理^③
20. 他スタッフとの連携^①
21. 他スタッフとの連携^②
22. 他スタッフとの連携^③
23. 職業としてのアスレティックトレーナー^①
24. 職業としてのアスレティックトレーナー^②
25. 職業としてのアスレティックトレーナー^③
26. 見学実習発表会^①
27. 見学実習発表会^②
28. 見学実習発表会^③
29. 予備
30. 予備

成績の評価

毎回作成するデイリーレポートや授業態度および自己評価などを総合的に評価する。

自己学習

毎回作成するデイリーレポートを中心に課題や問題点およびそれらの解決方法を継続的に学習する。

履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない（日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目であるため）。

テキスト

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1～9

参考文献

適宜、指示する。

研究室

吉田隆紀（診療研究棟3階305研究室）
山口由美子（診療研究棟4階415研究室）
中尾哲也（診療研究棟4階412研究室）
寺岡祐助（診療研究棟3階教員室）
内田靖之（診療研究棟3階311研究室）

講義コード	1A047011
講義名	医学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-3101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

担当教員

亀 節子

講義の目的

本講義では、まず、医療の対象となる人間存在、および生命の本質について理解を深めることを基本的な目的とする。その理解を踏まえた上で、さまざまな時代、地域において、病気の本質や原因がどのようなものとして捉えられてきたか、また病気にどう対応してきたかを概観する。

到達目標

現代医療の長所と短所を受講者自身が考察できるような視点を育成すること、および、病気の本質を聴き取る知恵（洞察力・判断力）と共感能力を身につけること。

授業計画表

授業計画

1. I 生命科学が描いている人間の姿 (生命の起源)
2. I 生命科学が描いている人間の姿 (生命の進化)
3. II 人間存在の本質 (人間の独自性)
4. II 人間存在の本質 (心と身体の関係)
5. II 人間存在の本質 (不安と痛み)
6. III 古代～中世の医学 (古代の医学)
7. III 古代～中世の医学 (中世&ルネサンス医学)
8. IV 近世～現代の医学 (17世紀の医学)
9. IV 近世～現代の医学 (18～20世紀の医学)
10. V 東洋医学 (インドの医学)
11. V 東洋医学 (中国の医学)
12. V 東洋医学 (日本の医学)
13. VI 現代の医療問題
14. VII イメージリー療法・プラシーボ効果・528Hz
15. VIII 医療におけるコミュニケーションの在り方

成績の評価

期末時の筆記試験（自筆ノート持ち込み可能）の結果を主とするが、口頭発表をはじめ、受講態度も平常点として評価対象とする（試験70%・平常点30%）。

自己学習

普段から、医療をめぐるさまざまな問題意識を培っておくことが求められる。

履修上の注意

自分自身で感じとって考える、という課程の大切さを認識しながら自発的に取り組むこと。

テキスト

特定しない。

参考文献

『医療概論』中川米造監修（医歯薬出版）

『人はなぜ治るのか』アンドルー・ワイル著、上野圭一訳（日本教文社）

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室

管理棟2階 204研究室

授業用E-mail

skame@kansai.ac.jp

講義コード	1A061011
講義名	運動生理学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-3001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 照屋 博康	指定なし

担当教員

照屋 博康

講義の目的

運動生理学の基礎になる学問は生理学である。この学問は「運動すると身体がどの様に反応するのか。」また「なぜそのような反応をするのか。」を学ぶ学問でもある。安全で有効な運動指導をするにあたって、これらの反応を考え理解する事が大切である。従って、本講義では運動による身体に及ぼす影響を理解する事を目的とする。

到達目標

運動することによる生理機能に及ぼす影響を理解し、健康維持増進や競技力向上に対する運動指導の関わり方を考えられるようにする。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション
2. 神経と筋肉の基礎
3. 運動と反射① ～ストレッチ効果～
4. 運動と反射② ～パフォーマンス効果～
5. 運動と筋力調節とトレーニング効果
6. 運動と筋損傷と筋修復
7. 運動とエネルギー供給系① ～運動強度と乳酸～
8. 運動とエネルギー供給系② ～筋疲労の基礎～
9. 運動とエネルギー供給系③ ～筋疲労の応用～
10. 運動強度と呼吸の変化 ～AT・LT・VT～
11. 運動と呼吸・循環① ～体温調節～
12. 運動と呼吸・循環② ～酸素借と酸素負債とEPOC～
13. 運動と内分泌系の基礎
14. 運動と内分泌系の応用～運動強度と分泌動態～
15. まとめ

成績の評価

定期試験(80%)と平常点(10%)と小テスト(10%)の総合評価により評価する

自己学習

運動中に生じる様々な生体反応に興味を持つ

履修上の注意

私語は厳禁とし、授業参加に励むこと(授業妨害と感じた場合は退出を命じることもあるので十分に注意すること)。

「健康運動実践指導者」「トレーニング指導者(JATI)」「日本体育協会公認アスレティックトレーナー(AT)」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

テキスト

「入門運動生理学 第4版」 (杏林書院) 勝田茂 編著・
和田正信・松永智 著

参考文献

「生理学テキスト」 (文光堂) 大地陸男

「運動生理学20講」(朝日書店) 勝田茂

「身体トレーニング 運動生理学からみた身体機能の維持・向上」 (真興交易(株)医学出版部) 宮村実晴 編著

講義コード	1A065021
講義名	英語表現法Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

担当教員

佐々木 敏光

講義の目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を持つ。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

授業計画表

授業計画

1. 前期ガイダンス
2. いわゆるゾウ人間は、その人の通称と同名の病気（‘ゾウ人間病’）には罹っていないと博士は語る
3. 試験で韓国は大騒動
4. 最高裁は、裁判員候補者295,000人に通知する予定である
5. 女子選手達は強烈な印象を残した
6. 日本、WBC（ワールドベースボールクラシック）の優勝を祝う
7. 「日本の教育システムは費用対効果が高い」とOECD発表
8. 国連、死刑制度で日本を非難
9. 政府は国内の沿岸ごみに取り組む方針
10. オバマは日本を「偉大なパートナー」と呼ぶ
11. 16歳のイギリス少年、単独世界一周航海に発つ
12. ハリケーン‘アイク’の被害者、食料・水・ガソリンを求める
13. 病院の犠牲者の夫がはっきりと意見を述べる
14. 地球にやさしい食品キャンペーンが（アメリカ）合衆国で極めて大きな影響を及ぼしている
15. クローン専門家、絶滅種の蘇生に一步近づく
16. 後期ガイダンス
17. 研究： DNAが夜型か朝方かを定める可能性

18. 日本は「民宿」の増加にどう対処すべきか
19. 外国人の道案内に役立つ新しい地図記号
20. ホテル、宿泊客の健康に配慮したオプションを拡張
21. 大学、学生の正しい食事習慣の奨励に努力
22. ディカプリオと法王、環境について議論
23. 不快なゴキブリ型ロボットが災害に役立つ可能性
24. 電機メーカー再編成計画、見直しが求められる可能性
25. 田舎での生活を選ぶ若者が増加
26. イチロー、通算4,257安打でローズ越え
27. 英国、遺伝子編集実験を容認
28. スポーツ、国や文化の隔たりを埋める助けに
29. 119番への緊急通報、70%が不必要とみなされる
30. 大学の研究、「白人化」されたハリウッドを発見

成績の評価

定期考査50%、復習テスト30%、平常点20%で評価します。語学は継続して学習することが大切であり、出席を重視します。

自己学習

英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をしてください。わからない語句は辞書で調べておくことが大切です。

履修上の注意

- ①復習テストを実施します。
- ②授業に辞書（電子辞書可）を持ってきてください。

テキスト

- 「Let's Enjoy the News in English大学生の時事英語入門」（南雲堂）佐藤哲三、佐藤勇治、荒巻龍也、池田賢治、毛利史生、小手川巧光
- 「Meet the World- English through Newspapers-2017 メディアで学ぶ日本と世界2017」（成美堂）若原 保彦

参考文献

講義の中で紹介します。

オフィスアワー

木曜日昼休憩の時間。

研究室

1号館2階 講師控室。

講義コード	1A113011
講義名	経穴学講義
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2303
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

担当教員

谷 万喜子

講義の目的

経穴は一般にツボと呼ばれています。身体内部の状況を投影する反応点・診断点であるとともに、鍼灸を行う重要な治療点です。経穴は各内臓器官（臓腑）に連絡する経絡という、古典的な循環系に沿って並び、その数は361種類670カ所あります。また経外奇穴と呼ばれるものが数十種類あります。この科目ではその中の244種類について講義しますが、それぞれ経絡毎に並ぶ経穴の順序と、講義の中で指定する経穴の部位・取穴法は、次回の講義が始まるまでに、確実に覚えるようにして下さい。毎日反復して覚えると講義が楽しくなります。毎回講義の始まる前または終わりに小テストを行います。経穴の部位・取穴法が分からなければ、効果的な鍼灸治療はできません。

到達目標

督脈・任脈・手太陰肺経から足太陽膀胱経までの経絡の流注と主要経穴の部位を覚える。

授業計画表

授業計画

1. 臓腑と経絡流注の概要、経穴の意義と取穴法の基本
2. 督脈の経穴と部位・取穴法①
3. 督脈の経穴と部位・取穴法②、任脈の経穴と部位・取穴法①
4. 任脈の経穴と部位・取穴法②、募穴の意義
5. 手太陰肺経の経穴と基準経穴の部位・取穴法、五行穴の意義
6. 手陽明大腸経の経穴と基準経穴の部位・取穴法
7. 足陽明胃経の経穴と基準経穴の部位・取穴法①
8. 足陽明胃経の経穴と基準経穴の部位・取穴法②
9. 足陽明胃経の経穴と基準経穴の部位・取穴法③
10. 足太陰脾経の経穴と基準経穴の部位・取穴法
11. 手少陰心経の経穴と基準経穴の部位・取穴法
12. 手太陽小腸経の経穴と基準経穴の部位・取穴法
13. 足太陽膀胱経の経穴と基準経穴の部位・取穴法①

14. 足太陽膀胱経の経穴と基準経穴の部位・取穴法②、兪穴の意義と部位・取穴法

15. 足太陽膀胱経の経穴と基準経穴の部位・取穴法③

成績の評価

期末試験の成績に、中間試験、小テスト等を加味して評価します。

自己学習

予習・復習のいずれも重要です。予習する内容については、講義の際に伝達します。

履修上の注意

毎日の地道な努力が成績に反映する科目です。

テキスト

『新版 経絡経穴概論』（医道の日本社）

参考文献

『図解鍼灸実用経穴学』本間祥白著（医道の日本社）

『臨床経穴図』木下晴都著（医道の日本社）

『定本経穴図鑑』芹澤勝助著（主婦の友社）

研究室

診療・研究棟4階416研究室

授業用E-mail

tani@kansai.ac.jp

講義コード	1A119701
講義名	人体の構造実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

講義の目的

本科目は人体を構成する各器官系の形態と構造について系統解剖学の立場から学ぶことを目的とします。また、この科目は実習科目ですが、学習効果を高めるために前期に並行して開講される講義科目「人体の構造Ⅰ」の内容と相互に関連しながら、連続的に進行するように授業計画が立てられています。

到達目標

受講生が人体の成り立ちや各器官系の形態や構造について解剖学に基づいて体系的に考察することができる力を身につけることを目指します。

授業計画表

授業計画

1. 医の倫理・骨系（総論）
2. 骨系（脊柱の骨）
3. 骨系（上肢の骨）
4. 骨系（上肢の骨）
5. 骨系（下肢の骨）
6. 骨系（下肢の骨）
7. 骨系（頭蓋の骨）
8. 筋系（総論）
9. 筋系（体幹の筋）
10. 筋系（上肢の筋）
11. 筋系（上肢の筋）
12. 筋系（下肢の筋）
13. 筋系（下肢の筋）
14. 筋系（頭頸部の筋）
15. 筋系（頭頸部の筋）

成績の評価

実習時間中の課題評価(80%)、平常点(20%)で総合的に評価します。

自己学習

毎回の授業の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に予習（授業範囲の教科書ページの通読）と復習（講義ノートや配付プリントを利用した授業内容の反復）を行う習慣をつけて下さい。

履修上の注意

1. 必修科目であるため、毎回の授業で出席を確認する。
2. 遅刻は3回の累積で1回の欠席とみなす。
3. 配付プリントは原則、再発行しないので紛失しないこと。
4. 平穏な受講環境と円滑な授業進行を行うため、受講生は一定の受講マナー（私語・飲食・携帯電話の禁止、脱帽）を守ること。（詳細は授業中に説明する）
5. 学籍番号順に着座すること。

テキスト

『解剖学』東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）

資料としてプリントを配付します。

参考文献

『日本人体解剖学』金子丑之助 原著（南山堂）

『プロメテウス解剖学 コア アトラス』坂井建雄 監訳（医学書院）

オフィスアワー

在室時はいつでも。

研究室

診療研究棟 4階 407

授業用E-mail

tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1A139021
講義名	国語表現法
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

担当教員

南山 かおり

講義の目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. Ⅰ. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. Ⅰ. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. Ⅰ. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. Ⅰ. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. Ⅰ. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. Ⅰ. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. Ⅰ. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. Ⅱ. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか

- | | | |
|-------------------|---|----------------|
| 10. II. 文の構造を考える | — | 2. 「ハ」の働き |
| 11. II. 文の構造を考える | — | 3. 「ガ」の働き |
| 12. II. 文の構造を考える | — | 4. 「ハ」の文、「ガ」の文 |
| 13. III. ことばは変化する | — | 1. ことばの揺れを観察する |
| 14. III. ことばは変化する | — | 2. 「ら抜きことば」の問題 |
| 15. III. ことばは変化する | — | 3. 情報の使い方 |

成績の評価

レポート提出50%・レポート内容40%・平常点10%
(なお、詳細については、授業時に伝える)

自己学習

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、平生から「日本語に対する興味・理解を深める」ことを心がける。

履修上の注意

課題のレポートは必ず提出すること。未提出の場合は単位を認定できない。
また、不必要な私語や途中退席等、授業の妨げになる行為は慎むこと。指示を守れない者は出席を認めないので注意すること。

テキスト

毎回、授業時にプリントを配布。

参考文献

- 「日本語練習帳」 (岩波新書) 大野晋
「日本語はおもしろい」 (岩波新書) 柴田武
「私家版 日本語文法」 (新潮文庫) 井上ひさし
「日本語はなぜ変化するか」 (笠間書院) 小松英雄

講義コード	1A156011
講義名	社会文化人類学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1212
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 岩谷 洋史	指定なし

担当教員

岩谷 洋史

講義の目的

人類学とは人類の文化・社会の多様性と普遍性を探究する総合的学問である。本講義では、人類学の基礎を学ぶことを目的とする。重要なのは、人類学における文化の捉え方、視点や考え方を身につけることである。講義では、まず人類学の考え方や研究方法、研究対象などの事項について解説し、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供する。次に、人類学の主要な研究テーマの一部を具体的に紹介する。わかりやすいように、ビデオ映像などの視聴覚教材などを用いながら行う。

到達目標

異文化を理解すると同時に、わたしたちにとっては、「あたりまえ」だと思っている自文化を相対化して考えることができる能力を養う。

授業計画表

授業計画

1. 人類学とはなにか？
2. 「文化」について考える
3. 人類学の視点：文化相対主義とはなにか？
4. 人類学の流れ：「他者」はどのように見られてきたのか？①
5. 人類学の流れ：「他者」はどのように見られてきたのか？②
6. 人類学の方法：フィールドワークとエスノグラフィー
7. 人類学の方法：フィールドワークとエスノグラフィー
8. 世界のいろいろな人びと：狩猟採集民の暮らし
9. 世界のいろいろな人びと：牧畜民の暮らし
10. ジェンダーとセクシュアリティ①
11. ジェンダーとセクシュアリティ②
12. モノの意味と交換①
13. モノの意味と交換②
14. 「宗教」について考える①

15. 「宗教」について考える②

成績の評価

平常点（出席点含む）：20%
授業期間中の小レポート：30%
最終レポート：50%

自己学習

- ・資料を配布するので、授業前や授業後には、資料を読むこと。
- ・自分の身の回りの生活スタイルをよく考えてみる。

履修上の注意

積極的に、自分の意見を述べてもらう。

テキスト

授業内で資料を配布する。

参考文献

適宜、紹介する。

授業用E-mail

iwatani_hiro@mac.com

講義コード	1A174011
講義名	心と身体の健康
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203.1
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

担当教員

近藤哲哉

講義の目的

心身症と関連する病態の代表としては心理・社会的要因により身体疾患の身体症状が変動する場合がありますが、他覚的異常がないのに身体症状が存在する場合や、精神疾患の身体症状という概念もあり、心と身体の関係は複雑です。

到達目標

心と身体は密接に関連するものであるから、心身症に属する疾患を考えるというより、個々の患者の病態がどの程度心身症的であるかを考えることが重要です。

授業計画表

授業計画

1. 心身相関のメカニズム[1]
2. 心身相関のメカニズム[2]
3. 面接法
4. 治療者・患者関係における問題
5. 自律訓練法
6. 慢性疼痛
7. 呼吸器・アレルギー系の心身症
8. 循環器系の心身症
9. 癌と心身医学（サイコオンコロジー）
10. 内分泌・代謝系の心身症
11. 消化器系の心身症
12. 神経・筋肉系の心身症、
13. 小児期の心身症[1]
14. 小児期の心身症[2]
15. 中年期・更年期の心身症

成績の評価

4択のマークシート問題の期末試験の点数と、平常点を合計して、6割以上なら合格です。追再試験もマークシートで行います。

自己学習

講義の進行が遅いと感じる人は、プリントの表の下にある注釈を読んでいてください。通学の電車内の時間も有効に使いましょう。

履修上の注意

プリントの、スクリーンに映っている部分よりも上下左右が見たい場合は、その方向を指差すジェスチャーで教えるか、090-2078-2292にCメールを送るか電話してください。画面をスクロールします。質問がある場合、挙手かCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。出欠を確認する時刻に遅刻や早退などで不在な場合、欠席として扱います。

テキスト

なし。

参考文献

「心身医学標準テキスト」 (医学書院) 久保千春編

オフィスアワー

水曜日午前中

研究室

診療研究棟303研究室

授業用E-mail

kondo0724538409@kansai.ac.jp

講義コード	1A187021
講義名	人体の機能Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2005
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

担当教員

大島稔

講義の目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問です。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域です。理学療法士においてもその重要性にかわりはありません。一般に生理学は、動物性機能と植物性機能に大別することができますが、「人体の機能Ⅰ」では、神経系・運動器系・感覚器系を中心とする動物性機能について学習します。

到達目標

以下に記したテキストに記載されている人体の機能の仕組みについて理解することを目標にして下さい。

授業計画表

授業計画

1. 生理学一般
2. 神経 (神経の一般的性質、変性と再生)
3. 神経 (静止膜電位、活動電位)
4. 神経 (興奮の伝導と伝達)
5. 神経 (末梢神経系)
6. 神経 (中枢神経系)
7. 神経 (自律神経系)
8. 筋 (筋収縮の仕組みとその分類)
9. 筋 (骨格筋、心筋、平滑筋)
10. 筋 (筋のエネルギー代謝)
11. 運動 (骨格筋に神経支配)
12. 運動 (下行路、運動の調節)
13. 感覚 (感覚の仕組みと一般的性質)
14. 感覚 (皮膚感覚と内臓感覚)
15. 感覚 (特殊感覚)

(1～15までの各項目につき、各4時間毎の講義を行う)

成績の評価

試験100%にて評価します。ただし、授業の1/3を超えて欠席した者は受験する資格がありません。

自己学習

事前にテキストを十分に読み込んで、理解できない個所を抽出しておくことが重要です。

履修上の注意

1年生のうち専門科目の基礎となる生理学の知識を十分に身につけておいて下さい。座席指定を行い、そこに座っていることで出席を取ります。

テキスト

「生理学 第3版」 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)

参考文献

適宜、講義中に紹介します。

オフィスアワー

時間があるときであれば、いつ部屋に来ていただいても対応します。

研究室

診療・研究棟4階404研究室

授業用E-mail

ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1A188021
講義名	人体の機能Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2006
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 錦織 綾彦	指定なし

担当教員

錦織 綾彦

講義の目的

生理学は、ヒトの生命の仕組みを明らかにする学問です。このため、人体を対象とする鍼灸やスポーツトレーナー活動について考えるうえで、ベースとなる科学的な知識を提供してくれる学問だともいえます。

生理学が対象とする学問領域は、大きく、動物性機能と植物性機能の2領域に分けることができます。前者は「人体の機能Ⅰ」で、後者は「人体の機能Ⅱ」で学修します。

到達目標

生理学における植物性機能の仕組みを学修し、理解する。

授業計画表

授業計画

1. 血液（血液の組成、血球の働き）
2. 血液（血液凝固、血液型）
3. 循環（循環中枢、心臓の働き）
4. 循環（循環の調節、血圧）
5. 呼吸（呼吸運動とその調節）
6. 呼吸（ガス交換とガス運搬）
7. 消化と吸収（消化器系と消化酵素）
8. 消化と吸収（消化管ホルモン、肝臓の働き）
9. 栄養と代謝（三大栄養素、同化と異化）
10. 体温（産熱、発熱、体温調節の仕組み）
11. 排泄（尿の生成）
12. 排泄（体液の調節、排尿と蓄尿）
13. 内分泌（ホルモンの性質）
14. 内分泌（内分泌腺の働き）
15. 生殖・成長と老化（生殖器機能、性ホルモン）

成績の評価

①期末試験（範囲：9.栄養と代謝～15.生殖・成長と老化、実施予定日：定期末試験期間中）と
②中間試験（範囲：1.血液～8.消化と吸収、実施予定日：11月18日（土））の成績を総合して評価する。

自己学習

あらかじめテキストと配布されたプリントを十分に読み込んで予習し、理解できない個所を抽出して、受講して下さい。

履修上の注意

「人体の機能Ⅱ」は「人体の機能Ⅰ」とともに、臨床医学やスポーツ医学の礎となる科目です。また、はり師きゅう師の国家試験および（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナーの共通科目の対象科目です。
真摯な態度で受講することを望みます。

テキスト

『生理学 第3版』東洋療法学校協会編
佐藤優子・佐藤昭夫 著（医歯薬出版）

参考文献

適宜、講義中に紹介する。

オフィスアワー

月曜日 昼休み

研究室

管理棟2階副学長室

授業用E-mail

nisigori@kansai.ac.jp

講義コード	1A194021
講義名	人体の構造Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

講義の目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義します。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とします。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指します。また講義後も自立学習が出来ることを目指します。

授業計画表

授業計画

1. 受講ガイダンス
2. 人体の構成
3. 骨系 (脊柱の骨)
4. 骨系 (脊柱の骨)
5. 骨系 (脊柱の骨)
6. 骨系 (胸郭の骨)
7. 骨系 (上肢の骨)
8. 骨系 (上肢の骨)
9. 骨系 (上肢の骨)
10. 骨系 (上肢の骨)
11. 骨系 (上肢の骨)
12. 骨系 (下肢の骨)
13. 骨系 (下肢の骨)
14. 骨系 (下肢の骨)
15. 骨系 (頭蓋の骨)
16. 骨系 (頭蓋の骨)
17. 骨系 (頭蓋の骨)
18. 骨系 (頭蓋の骨)
19. まとめ
20. 筋系 (体幹の筋)

21. 筋系 (体幹の筋)
22. 筋系 (上肢の筋)
23. 筋系 (上肢の筋)
24. 筋系 (上肢の筋)
25. 筋系 (下肢の筋)
26. 筋系 (下肢の筋)
27. 筋系 (下肢の筋)
28. 筋系 (下肢の筋)
29. 筋系 (頭頸部の筋)
30. まとめ

成績の評価

筆記試験(100%)で評価します。

自己学習

解剖学は人体の構造に関する知識を学習する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教材を利用した予習と復習が必要です。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理しましょう。

履修上の注意

1. 必修科目であるため、毎回の授業で出席を確認する。
2. 遅刻は3回の累積で1回の欠席とみなす。
3. 配付プリントは原則、再発行しないので紛失しないこと。
4. 平穏な受講環境と円滑な授業進行を行うため、受講生は一定の受講マナー（私語・飲食・携帯電話の禁止,脱帽）を守ること。（詳細は授業中に説明する）
5. 学籍番号順に前詰めで着座すること。

テキスト

『解剖学』東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）
資料としてプリントを配付します。

参考文献

『日本人体解剖学』金子丑之助 原著（南山堂）
『プロメテウス解剖学 コア アトラス』坂井建雄 監訳（医学書院）

オフィスアワー

在室しているときはいつでも。

研究室

診療研究棟 4階 407

授業用E-mail

tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1A195021
講義名	人体の構造 II
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3 時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

講義の目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義します。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とします。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指します。また講義後も自立学習が出来ることを目指します。

授業計画表

授業計画

1. 受講ガイダンス
2. 内臓系 (消化器)
3. 内臓系 (消化器)
4. 内臓系 (消化器)
5. 内臓系 (消化器)
6. 内臓系 (消化器)
7. 内臓系 (消化器)
8. 内臓系 (呼吸器)
9. 内臓系 (呼吸器)
10. 内臓系 (泌尿器)
11. 内臓系 (泌尿器)
12. 内臓系 (生殖器)
13. 内臓系 (生殖器)
14. 内臓系 (内分泌)
15. 内臓系 (内分泌)
16. まとめ
17. 循環器系 (一般)
18. 循環器系 (動脈)
19. 循環器系 (動脈)
20. 循環器系 (動脈)

21. 循環器系（静脈・リンパ）
22. 神経系（中枢神経）
23. 神経系（中枢神経）
24. 神経系（中枢神経）
25. 神経系（中枢神経）
26. 神経系（伝導路）
27. 神経系（末梢神経）
28. 神経系（末梢神経）
29. 感覚器系
30. 感覚器系

成績の評価

筆記試験(100%)で評価します。

自己学習

解剖学は人体の構造に関する知識を学習する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教材を利用した予習と復習が必要です。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理しましょう。

履修上の注意

1. 必修科目であるため、毎回の授業で出席を確認する。
2. 遅刻は3回の累積で1回の欠席とみなす。
3. 配付プリントは原則、再発行しないので紛失しないこと。
4. 平穏な受講環境と円滑な授業進行を行うため、受講生は一定の受講マナー（私語・飲食・携帯電話の禁止,脱帽）を守ること。（詳細は授業中に説明する）
5. 学籍番号順に前詰めで着座すること。

テキスト

『解剖学』東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）
資料としてプリントを配付します。

参考文献

『日本人体解剖学』金子丑之助 原著（南山堂）
『プロメテウス解剖学 コア アトラス』坂井建雄 監訳（医学書院）

オフィスアワー

在室時はいつでも。

研究室

診療研究棟 4階 407

授業用E-mail

tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1A198011
講義名	人体の構造実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2004
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

講義の目的

本科目は人体を構成する各器官系の形態と構造について系統解剖学の立場から学ぶことを目的とします。また、この科目は実習科目ですが、学習効果を高めるために前期に並行して開講される講義科目「人体の構造Ⅱ」の内容と相互に連係しながら、連続的に進行するように授業計画が立てられています。

到達目標

受講生が人体の成り立ちや各器官系の形態や構造について解剖学に基づいて体系的に考察することができる力を身につけることを目指します。

授業計画表

授業計画

1. 医の倫理・神経系（総論）
2. 神経系（中枢神経）
3. 神経系（伝導路）
4. 神経系（末梢神）
5. 感覚器系
6. 循環器系（総論）
7. 循環器系（心臓）
8. 循環器系（動脈）
9. 循環器系（静脈他）
10. 内臓系一般
11. 呼吸器系
12. 消化器系
13. 泌尿器系
14. 生殖器系
15. 内分泌系

成績の評価

実習時間中の課題評価(80%)、平常点(20%)で総合的に評価します。

自己学習

毎回の授業の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に予習（授業範囲の教科書ページの通読）と復習（講義ノートや配付プリントを利用した授業内容の反復）を行う習慣をつけて下さい。

履修上の注意

1. 必修科目であるため、毎回の授業で出席を確認する。
2. 遅刻は3回の累積で1回の欠席とみなす。
3. 配付プリントは原則、再発行しないので紛失しないこと。
4. 平穏な受講環境と円滑な授業進行を行うため、受講生は一定の受講マナー（私語・飲食・携帯電話の禁止、脱帽）を守ること。（詳細は授業中に説明する）
5. 学籍番号順に着座すること。

テキスト

『解剖学』東洋療法学校協会 編（医歯薬出版）

資料としてプリントを配付します。

参考文献

『日本人体解剖学』金子丑之助 原著（南山堂）

『プロメテウス解剖学 コア アトラス』坂井建雄 監訳（医学書院）

オフィスアワー

在室時はいつでも。

研究室

診療研究棟 4階 407

授業用E-mail

tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1A221011
講義名	生涯スポーツⅠ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純、相澤慎太

講義の目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動を適時実践し、生活の中に意識的に運動を取り入れて行けるようにすることを目的とする。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

授業計画

- 【合同授業】（五十嵐、相澤）
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合し、選択種目を決定する。
第2週から1班：軽スポーツ・運動ゲームコース、2班スポーツコースとに分かれて実践する。
- 体力測定の実践①(筋力、筋持久力、柔軟性など)
- 体力測定の実践②(筋力、筋持久力、柔軟性など)
- 体力測定の実践③（身体組成、形態の測定）
- 体力測定の評価
- 1班：運動ゲーム
2班：バドミントンの実践①
- 1班：フライングディスク①
2班：バドミントンの実践②
- 1班：フライングディスク②
2班：バドミントンの実践③
- 1班：フライングディスク③
2班：バドミントンの実践④
- 1班：フライングディスク④
2班：卓球の実践①
- 1班：グラウンドゴルフ①
2班：卓球の実践②
- 1班：グラウンドゴルフ②
2班：卓球の実践③
- 1班：ミニバレーボール①
2班：ソフトボールの実践①
- 1班：ミニバレーボール②
2班：ソフトボールの実践②

15.1班：ミニバレーボール② 2班：ソフトボールの実践③
※ 天候により、授業内容を変更し体育館を使用することがある。

成績の評価

平常点50%・学習到達度30%・授業に対する取り組み状況20%にて評価。

自己学習

予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。

履修上の注意

- ・スポーツ用具は大切に扱う習慣をつけること。
 - ・服装は動きやすい、授業にふさわしいものを着用すること。
 - ・体育館内は土足厳禁のため、体育館専用のシューズを用意すること。
 - ・現金や貴重品の取り扱いには十分注意し、各自で管理すること。
(各自のロッカーや体育館の貴重品用ロッカーなど利用)
 - ・ピアス、ネックレス、指輪、腕時計等の貴金属品は他人及び自己の危険防止のため身につけない。
 - ・遅刻は1回を1/3欠席として計算する。
 - ・「健康運動実践指導者」、「」スポーツプログラマー」、「トレーニング指導者」を受験する学生は、当該科目は必須です。
- 詳しくは、巻末を参照して下さい。

テキスト

特になし

参考文献

特になし

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1A222011
講義名	生涯スポーツII
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純、相澤慎太、渡辺俊哉

講義の目的

筋力やバランス能力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。生涯スポーツIIでは、体力の維持、増進に有効である様々なトレーニング、体操およびスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

授業計画

- 【合同授業】（五十嵐、相澤、渡辺）
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合。（第2週から選択する種目を決めるので、必ず出席すること。）
【補強運動・スポーツコース】（担当：五十嵐、相澤）
 - 体操
 - 補強運動の実践①（器具を使用しないトレーニング）
 - 補強運動の実践②（マシンを使用するトレーニング）
 - 補強運動の実践③（フリーウェイトを使用するトレーニング）
 - 補強運動の実践④（アジリティートレーニング）
 - 補強運動の実践⑤（サーキットトレーニング）
 - 補強運動の実践⑥（トレーニングプログラムの実践）
 - 卓球の基礎 ラケットの選択とボール遊び
- 【太極拳】
- 太極拳の基本
 - 太極拳の基本
 - 太極拳の基本
 - 動作名：起 勢 （チー）
 - 動作名：野馬分鬃 （イエマ）
 - 動作名：倒巻肱 （ダオ）
 - 動作名：左攬雀尾 （ズ ランヂュ）
 - 動作名：左攬雀尾 （ズ ランヂュ）

ウI)	
10. フォアハンド、バックハンドで返球	10. 動作名：右攬雀尾（ヨウランチウ
ウI)	
11. フォアハンド、バックハンドのツツキ	11. 動作名：右攬雀尾（ヨウランチウ
ウI)	
12. フォアハンド、バックハンドストローク （ビエン）	12. 動作名：単 鞭 （ダン
13. いろいろなサーブ、スマッシュの説明 （ショウ）	13. 動作名：十字手 （シーズー
14. ゲームの説明と実践 （シー）	14. 動作名：収 勢 （ショウ
15. 卓球の実技試験	15. 総まとめ

成績の評価

平常点50%・学習到達度30%・授業に対する取り組み状況20%にて評価。

自己学習

予習はいらぬが、復習として、動きの再確認を行うこと。

履修上の注意

- ・スポーツ用具は大切に扱う習慣をつけること。
- ・服装は動きやすい、授業にふさわしいものを着用すること。
（膝掛け、マフラー、ネックウォーマー（スポーツ用を除く）は不可）
- ・体育館内は土足厳禁のため、体育館専用のシューズを用意すること。
- ・現金などの貴重品の取り扱いには十分注意し、各自で管理すること。（各自のロッカーや体育館の貴重品用ロッカーなど利用）
- ・ピアス、ネックレス、指輪、腕時計等の貴金属品は他人及び自己の危険防止のため身につけない。
- ・遅刻は1回を1/3欠席として計算する。
- ・「健康運動実践指導者」、「JATI認定トレーニング指導者」を受験する学生は、当該科目は必須です。

詳しくは巻末を参照して下さい。

テキスト

特になし

参考文献

「健康運動実践指導者用テキスト」健康・体力づくり事業財団

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1A226011
講義名	生命のしくみ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 弘	指定なし

担当教員

松本 弘

講義の目的

生命のしくみについては、最近、新聞紙上をにぎわす話題が多い。例えば、iPS細胞、ES細胞、ポストゲノム、遺伝子治療、組換え、DNA、形態形成、再生医療、生命倫理、環境倫理、バイオテクノロジーオートファジー等である。これらのことが、我々の生活にどうかかわってくるのか。特に医療系の道に進むものにとっては知らずにすまずことは出来ない。

生命のしくみ（生物学）は、基本的には生物の共通性と生物の多様性について学習することである。共通性は、分子（DNA、タンパク質）、細胞、個体、エネルギー、自己複製（生殖、発生、遺伝）等である。一方多様性は、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性等である。

以上の生物の共通性や生物の多様性の学習を通じて生物学的に探究する能力と態度を育てる。同時に生物学についての基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な自然観を修得する。さらに最新の生物学の成果や知見についても理解する能力を育成する。

到達目標

1. 科学と科学の方法について細胞学の歴史を通して理解する。
2. 生態学や環境問題、生物の進化についての理解を深める。
3. 細胞の構造と機能、細胞の成分、細胞膜について理解する。
4. 酵素の働き、同化（光合成）、異化（呼吸）のしくみを理解する。
5. 細胞の増殖、動物の発生過程と形態形成のしくみを理解する。
6. 遺伝の法則とDNAの複製、形質発現の過程を理解する。
7. バイオテクノロジーとその利用について理解を深める。
8. 生体防御と免疫のしくみを理解する。
9. ヒトの感覚器と筋肉の収縮、ホルモン系、神経系について理解を深める。

授業計画表

授業計画

1. 科学の方法と細胞学の歴史
2. 個体群の生態学、生態系
3. 環境問題

4. 生物の進化
5. 細胞の構造と機能、細胞の成分、細胞膜
6. 酵素とその働き
7. 代謝（異化、同化）
8. 細胞の増殖（細胞分裂）
9. 発生と形態形成
10. 遺伝の法則とDNA、ゲノム、ポストゲノム等
11. DNAの複製と形質発現
12. バイオテクノロジーとその利用
13. 生体防御、抗原と抗体、体液性免疫、細胞性免疫
14. ヒトの感覚器、筋肉の収縮
15. ホルモン系、神経系

成績の評価

レポート提出、授業態度の平常点で約30%、筆記試験で約70%の総合判定により評価します。

自己学習

毎回の授業には予習・復習をして臨むこと。

履修上の注意

指定された座席に座ること。自分のノートを作ること。配布されたプリントは整理しておくこと。静穏な環境下で授業が進行するよう努力すること。授業中での飲食や携帯電話、居眠りなどは厳禁する。

テキスト

「スクエア最新図説生物」 （第一学習社） 吉里勝利監修

参考文献

必要に応じてその都度紹介します。

講義コード	1A229011
講義名	生命の化学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸田 静男	指定なし

担当教員

戸田静男

講義の目的

生体を構成する物質の構造および機能（はたらき）の基本を習得してもらう。そして、生体機能の関連性についても理解してもらう。

到達目標

生命を構成する物資の構造と機能（はたらき）を理解し、医療人としての基礎としてほしい。

授業計画表

授業計画

1. 人体の仕組み
2. タンパク質の構造
3. タンパク質のはたらき
4. 糖質の構造
5. 糖質のはたらき
6. 脂質の構造
7. 脂質のはたらき
8. 核酸の構造
9. 核酸のはたらき
10. 酵素の性質とはたらき
11. ビタミンの種類とはたらき
12. 水・無機質のはたらき
13. 栄養素の消化・吸収
14. 生体の恒常性を保つシステム
15. エネルギーの消費と供給

成績の評価

学期末試験で成績評価を行う。

自己学習

高校で化学を履修していない学生や不安のある学生に対しても習得できるように配慮する。受講後の復習を十分にやってほしい。質問は、大いに受け付ける。

履修上の注意

授業計画に従い授業を進めていくが、各項目と関連性なども講義していく。

テキスト

「イラスト 生化学入門 (栄養素の旅)」
相原英孝、大森正英ら著 (東京教学社)

参考文献

本学図書館にこれに関する数多くの書籍があるので、大いに参考にしてほしい。

講義コード	1A269011
講義名	東洋医学総論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2301
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中吉 隆之	指定なし

担当教員

中吉隆之

講義の目的

中国伝来の伝統医学から発展した東洋医学について、歴史的な沿革、哲学思想、人体の構造と働き、病気の原因・分析法・診察法の基礎を学ぶ。

到達目標

東洋医学の診断法である各種弁証法を用いて初歩的な診断ができるようになる。

授業計画表

授業計画

1. ○ガイダンス
 - 東洋医学の特徴：どのような医学なのか？
- 歴史・人体の見方
2. 治療法の概要
 - 東洋医学の現状
3. ○東洋医学と哲学：東洋医学の基礎理論
 - 陰陽学説
4. 五行学説
5. 陰陽五行学説のまとめ
6. ○東洋医学の生理：人の身体はどのように作られているのか？
 - 生理物質と神①
7. 生理物質と神②
8. 臓象学説①
9. 蔵象学説②
10. 経絡学説
11. ○病理・病証：病気の成り立ち・病気の分析
 - 病因①（外感病因）
12. 病因②（内傷病因）
13. 八綱弁証①

14. 八綱弁証②
- 15.○前期のまとめ
- 16.○前期の復習
- 17.○病理・病証
 気血津液弁証①気
18. 気血津液弁証②血
19. 気血津液弁証③津液
20. 臓腑弁証①肝
21. 臓腑弁証②心
22. 臓腑弁証③脾
23. 臓腑弁証④胃
24. 臓腑弁証④肺・腎
25. 臓腑弁証⑤六腑
26. 経絡弁証
27. 六経弁証
- 28.○四診：四種類の診察法（望聞問切）について
 四診法①
29. 四診法②
- 30.○総まとめ

成績の評価

定期試験（前期末試験50%＋後期末試験50%）で評価する。

自己学習

この講義では普段使い慣れない専門用語や現代科学とは異なる思考方法が出てきます。次回の講義までに、必ず復習をして内容を再確認し、分からなかったことは講師に質問したり、図書館などで調べるなどして自ら進んで疑問を残さないように学習して下さい。

履修上の注意

『東洋医学総論』は東洋医学を学ぶ上で、土台となる科目です。また、はり師きゅう師国家試験の重要科目にもなっています。よく分からないことがあれば、授業中でも遠慮無く質問して下さい。
※途中、体調不良等の理由で退席する場合は、担当教員に理由を告げて許可を得て退席して下さい。

テキスト

『新版 東洋医学概論』東洋療法学校協会編（医道の日本社）、随時、プリントを配布

参考文献

「漢方用語大辞典」創医学会学術部主編（株式会社 燎原）
※値段は少し高い。

オフィスアワー

月曜日：16:20～17:00
水曜日、木曜日の昼休み時間
記載の曜日・時間帯以外でも可能であれば対応します。
事前にメールなどで連絡をいただければ確実です。

研究室

診療・研究棟4階 414研究室

授業用E-mail

nakayosi@kansai.ac.jp

講義コード	1A270011
講義名	東洋思想
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1213
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 水野 杏紀	指定なし

担当教員

水野 杏紀

講義の目的

東洋医学の古典、『黄帝内経』を踏まえて、陰陽五行、相学、風水・養生、歴史・文化、故事成語などを中国のさまざまな文献にもとづいて解説する。これにより、東洋思想のもののみかたを考究する。

到達目標

古来より、中国では道を志す者は必要な技能の熟達を目指すとともに、諸書などを通じて自らの哲学の形成を努めた。講義ではそうした哲学の基盤となる東洋思想を概説し、それらの理解を深めることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 授業全体の解説
2. 陰陽五行① 陰陽五行と四季の歳時（『黄帝内経』）
3. 陰陽五行② 陰陽五行と植物（『神農本草経』）
4. 陰陽五行③ 陰陽五行と食養生
5. 相学① 西洋・東洋の手相学
6. 相学② 東洋の人相学（宋の『神相全篇』）
7. 風水・養生① 風水が唱える良好な環境
8. 風水・養生② 長生きする居宅・庭空間・意匠
9. 風水・養生③ 文人たちが求めた長生と暮らし
10. 歴史・文化① 漢字の成立から詩・書・画まで
11. 歴史・文化② 歴史小説に学ぶ（『三国志演義』を中心に）
12. 故事成語① 諸子百家の時代と思想
13. 故事成語② 孔孟思想（「仁」と東洋医学を中心に）
14. 故事成語③ 老荘思想・易と東洋医学
15. 全体のまとめ 『黄帝内経』と東洋思想

成績の評価

レポート50%・小テスト30%・平常点20%

自己学習

配布プリントをもとに次回の予習事項を提示

参考文献

『易、風水、暦、養生、処世—東アジアの宇宙観』
講談社、水野杏紀

講義コード	1A274011
講義名	導入教育
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-5001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員

山田武蔵、若山育郎、王財源、川本正純、近藤哲哉、伊藤俊治、谷万喜子、戸村多郎、山崎寿也、池藤仁美、寺岡祐助、百合邦子

講義の目的

本講義では、大学での学修を導入に、鍼灸（師）の魅力、それらを活かした将来像について、学科教員を中心に、一部外部講師などを招いて展開する。

到達目標

本学に入学した目的を再確認し、4年間の学修プランを構築できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 日本の伝統医学としての鍼灸（若山） ※PreGEテスト終了後より
2. 大学での学び（学修）（伊藤）
3. 社会人基礎力を磨く [キャリア支援]（外部講師）
4. e-learningの活用法（池藤）
5. 鍼灸の歴史と日本での発展（王）
6. 日常生活の中の東洋医学（川本）
7. 鍼灸（師）とは（川本）
8. 鍼灸で捉える身体（川本）
9. 未病と鍼灸（戸村）
10. 神経難病と鍼灸（谷）
11. スポーツと鍼灸（寺岡）
12. 女性と鍼灸（百合）
13. 精神疾患と漢方・鍼灸（近藤）
14. 卒業後の進路選択(柔道整復師)（山田）
15. 知っていて得する事、知らなくて損する事（山崎）

成績の評価

各講義の概要と感想を800～1000字（400字詰めA4原稿用紙で横書き、ボールペン使用。表紙に

タイトル・講義日・担当教員、学生番号と氏名を明記)で書き、原則、各講義終了後 週間以内に教務課に提出すること。各レポートは担当教員が10点満点で評価し、150点満点を100点に換算する。欠席および期限内でのレポート未提出の場合は0点とする。

自己学習

各講義を通じて興味を持ったこと(キーワードなど)について、図書館や検索ツールを活用してさらに内容を深めていくこと。

履修上の注意

講義の順番が前後する場合もあるので、掲示などを注視しておくこと。土曜振替や補講期間での開講もあるため、日程を間違わないようにすること。なお、各回の担当など詳細については、第1回講義時に別途配布の予定である。

テキスト

特になし。

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日の昼休み(坂口)

その他の教員のオフィスアワーやメールアドレスなどは別途、一覧表を参考にすること。

研究室

診療・研究棟4階412研究室

授業用E-mail

sakaguti@kansai.ac.jp

講義コード	1A310011
講義名	物質と自然のしくみ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中村 正信	指定なし

担当教員

中村正信

講義の目的

複雑な現代人の生活も自然現象の中で営まれている。医療従事者による、身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面においても、自然の法則とは無関係ではない。そこで物質と自然の法則を中心に学び、細かい事項を暗記するのではなくて、前提から導き出す結論に大きな誤りが起こらない力を身に付ける。これは専門科目を学ぶ上で基礎となる。

到達目標

この授業で使用するテキストは、高校で物理をあまり学習しなかった場合でも、自然現象の見方を把握して定性的な理解ができるように書かれたもので、数式をほとんど使わずに説明するよう配慮されている。授業ではできるだけ身の回りの事象を題材に取り上げることにより、身近な現象を見る目と科学する心を持つことを目指す。合わせて、専門科目で具体例を学んだ場合に、その内容が理解できるような基礎力を身につける。

授業計画表

授業計画

1. はじめに、狙い、進め方
2. 物理量と物理法則、単位
3. 力とその性質、万有引力と重力
4. 摩擦力と抵抗、力のつり合い、水圧・気圧
5. 速度と加速度
6. 運動の法則
7. 等速円運動、単振動、運動量と力積
8. 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー
9. 熱と温度、内部エネルギー、熱力学の法則
10. 波の性質、音波、光波
11. 電荷、クーロンの法則、電流
12. 回路と起電力、オームの法則
13. 磁石と磁場、電流と磁場、電磁誘導

14. 原子の構造、波か粒子か

15. 原子核の崩壊と放射線、核エネルギー

成績の評価

試験約66%・授業中のミニレポート約30%・平常点約4%

自己学習

高校で物理を履修していない学生は、テキストにあらかじめ目を通し、特に物理量の名称や記号に注意すること。学習においては、わからない箇所をノートに記入し、「どこまでわかって、どこがわからないか」を見直すことを薦める。

履修上の注意

この講義はこれまで物理的な思考法になじんでこなかった学生も対象としている。デモや実験も行う予定であり、積極的に取り組むことを期待する。各講義の中に基本的な演習問題を解く時間をとる。問題の答えを覚えるのではなく、考え方を理解できることが重要である。なおミニレポートは関連することを必ず書いて提出すること。

テキスト

「自然科学の基礎としての物理学」（学術図書出版社）原康夫著

参考文献

学生毎に状況が違うので直接担当教員に相談するのが良い。

例としては次のような本がある。

特に最初から勉強しようとする学生向け

「まるわかり！基礎物理」（南山堂）桑子研著

数式も避けずに勉強しようとする学生向け

「物理学がわかる」（技術評論社）川村康文著

オフィスアワー

木曜日放課後（17:00～18:30）

なお希望者は予めE-mail等で場所を確認してください。

授業用E-mail

nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	1A329011
講義名	法の基礎知識（日本国憲法）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202.1
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 池田 裕明	指定なし

担当教員

池田 裕明

講義の目的

法学の基礎的知識日本国憲法について解説することをこの講義の目的とする。しかし、何も難しいことを講義しようとするものではない。むしろ、我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係・法律問題が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行うことにより、理解してもらいたいと考えている。現実の生活を法的に理解・説明できる素養を習得しようとするものである。

形式としては、通常の講義形式で行う。内容としては、プロローグとして、六法の使い方等について解説したうえで、法の本質、法の種類、裁判制度等の、いわゆる法学の総論的な問題および日本国憲法を扱う。

到達目標

学生諸君の将来の進路に鑑み、可能な限り、医事的・時事的問題もとりあげたい。

授業計画表

授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法

14. 労働と法

15. エピローグ

成績の評価

成績評価は、期末とミニツツペーパーおよびレポート等。
なお、詳細については、第1回目の講義において説明する。

履修上の注意

講義形式という制約から、どうしても一方的講義とならざるを得ないが、受講者とのコミュニケーションをはかるために、ミニツツペーパーを随時実施する。このミニツツペーパーでは、課題に答えてもらうと共に、受講者から質問、疑問を提起してもらうことで、それらの問題を講義にとり入れていきたいと考えている。なお、このミニツツペーパーは成績評価の際に、資料の一つとして利用する。さらに、このミニツツペーパーは出席調査の意味ももっている。

テキスト

「目で見える憲法」 (有斐閣)

「現代法学入門」 (有斐閣)

「ポケット六法 (2017年)」 (有斐閣)

参考文献

講義において紹介する

講義コード	1A378011
講義名	鍼灸基礎実習ⅠA（基礎実技）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	3
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2302
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

担当教員

山崎 寿也

講義の目的

この科目は、鍼灸師になるために必要な鍼灸施術の基礎知識を学び、刺鍼や施灸の基礎技術を修得する科目である。

前期は刺鍼操作の基礎である片手挿管法と旋撚直刺刺入を、後期は四肢の取穴法と刺鍼、施灸技術の基礎と八分灸・重ね灸の方法を指導する。

到達目標

片手挿管60回以上（5分間）、紙上施灸100壮以上（10分間）

授業計画表

授業計画

1. 鍼の基礎知識（講義）
2. 片手挿管法の基本練習
3. 鍼枕での旋撚刺法の練習
4. 実習室における諸注意
5. 鍼の有害事象（講義）
6. 各自の下腿の切皮練習
7. 各自の下腿の刺入練習
8. 相手の前腕部の切皮練習
9. 相手の下腿の刺入練習
10. 実技試験の説明
11. 実技試験の練習
12. 実技試験の練習
13. 刺鍼技術の実技試験
14. 刺鍼技術の実技試験
15. 実技再試験
16. 灸の基礎知識（講義）
17. 紙上での施灸の基本練習

18. 灸の有害事象（講義）
19. 各自の下腿の八分灸練習
20. 相手の下腿の八分灸練習
21. 相手の前腕の八分灸練習
22. 相手の下腿の重ね灸練習
23. 相手の前腕の重ね灸練習
24. 相手の前腕の重ね灸練習
25. 実技試験の説明
26. 実技試験の練習
27. 刺鍼技術の実技試験
28. 施灸技術の実技試験
29. 実技再試験
30. 無痕灸の実習

成績の評価

前期鍼実技試験：20%
後期鍼実技試験：30%
後期灸実技試験：30%
その他（提出物等）：20% にて評価

自己学習

普段から、「片手挿管法の基本練習」と「紙上での施灸の基本練習（後期から）」を心がけること。

履修上の注意

毎時間、新しい内容の授業を行う。欠席すると技術習得に影響するので、欠席しないよう健康管理に留意すること。

テキスト

『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編（医道の日本社）
その他、資料配布

参考文献

『はりきゅう実技〈基礎編〉』東洋療法学校協会編（医道の日本社）
『図解 鍼灸臨床手技マニュアル』尾崎昭弘著（医歯薬出版）

オフィスアワー

月曜日昼休み
空いている時間はなるべく対応しますので、メール等で事前連絡がある方が確実です。

研究室

診療・研究棟3F 311研究室

授業用E-mail

yamazaki@kansai.ac.jp

講義コード	1A378012
講義名	鍼灸基礎実習ⅠB（基礎実技）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	3
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2302
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 北川 洋志	指定なし

担当教員

北川洋志

講義の目的

この科目は、鍼灸師になるために必要な鍼灸施術の基礎知識を学び、刺鍼や施灸の基礎技術を修得する科目である。

前期は刺鍼操作の基礎である片手挿管法と旋撚直刺刺入を、後期は四肢の取穴法と刺鍼、施灸技術の基礎と八分灸・重ね灸の方法を指導する。

到達目標

片手挿管60回以上（5分間）、紙上施灸100壮以上（10分間）

授業計画表

授業計画

1. 鍼の基礎知識（講義）
2. 片手挿管法の基本練習
3. 鍼枕での旋撚刺法の練習
4. 実習室における諸注意
5. 鍼の有害事象（講義）
6. 各自の下腿の切皮練習
7. 各自の下腿の刺入練習
8. 相手の前腕部の切皮練習
9. 相手の下腿の刺入練習
10. 実技試験の説明
11. 実技試験の練習
12. 実技試験の練習
13. 刺鍼技術の実技試験
14. 刺鍼技術の実技試験
15. 実技再試験
16. 灸の基礎知識（講義）
17. 紙上での施灸の基本練習

18. 灸の有害事象（講義）
19. 各自の下腿の八分灸練習
20. 相手の下腿の八分灸練習
21. 相手の前腕の八分灸練習
22. 相手の下腿の重ね灸練習
23. 相手の前腕の重ね灸練習
24. 相手の前腕の重ね灸練習
25. 実技試験の説明
26. 実技試験の練習
27. 刺鍼技術の実技試験
28. 施灸技術の実技試験
29. 実技再試験
30. 無痕灸の実習

成績の評価

前期鍼実技試験：20%
後期鍼実技試験：30%
後期灸実技試験：30%
その他（提出物等）：20% にて評価

自己学習

普段から、「片手挿管法の基本練習」と「紙上での施灸の基本練習（後期から）」を心がけること。

履修上の注意

毎時間、新しい内容の授業を行う。欠席すると技術習得に影響するので、欠席しないよう健康管理に留意すること。

テキスト

『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編（医道の日本社）
その他、資料配布

参考文献

『はりきゅう実技〈基礎編〉』東洋療法学校協会編（医道の日本社）
『図解 鍼灸臨床手技マニュアル』尾崎昭弘著（医歯薬出版）

オフィスアワー

水曜日 昼休み

研究室

診療・研究棟3階鍼灸教員室

授業用E-mail

kitagawa@kansai.ac.jp

講義コード	1A397011
講義名	鍼灸理論Ⅰ（基礎）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-4102
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

担当教員

木村研一

講義の目的

鍼灸治療は東洋医学の一つとして、長い歴史と伝統の中で発展してきた治療法であり、古代の中国思想である陰陽五行説に立脚した医療であるといえます。従来、鍼灸治療は、経験的で科学性に欠けるきらいがありました。鍼灸理論は、鍼灸治療の治療効果を、科学の目で観察し、そのメカニズムを論理的に考察する能力を養うことを目的とする授業科目です。したがって、講義内容は、鍼灸刺激が生体にどのように受容されるのか、また鍼灸刺激は生体の組織や器官にどのような影響を与えるのか、鍼灸治療の効果はどのようなメカニズムで出現するのかなどについて、現在知られている生理学や免疫学などの科学的知見に基づき考えることが中心になります。

到達目標

鍼灸の治療理論を、科学的な側面から理解するための基礎知識を習得することを最低限の到達目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 1. 1. 鍼灸施術について(5) 灸の基礎知識
2. 1. (6) 灸術の種類
3. 1. (8) リスク管理① (灸)
4. 1. (1) 概論 (2) 鍼灸の基礎知識①
5. 1. (2) 鍼灸の基礎知識②
6. 1. (3) 刺鍼の方式と術式
7. 1. (4) 特殊鍼法①
8. 1. (4) 特殊鍼法②
9. 1. (7) 鍼灸の臨床応用
10. 1. (8) リスク管理① (鍼)
11. 1. (8) リスク管理② (安全・衛生)
12. 2. 鍼灸治効の基礎 (1) 痛み感覚の受容と伝導
13. 2. (2) 温度感覚の受容と伝達

14. 2. (3) 触圧感覚の受容と伝達

15. 2. (4) 筋の伸張刺激と振動の受容と伝導

成績の評価

評価は定期試験の成績によってのみ評価します。(試験100%)

出席は毎授業内に確認します。

確認時に不在の学生は、原則、欠席として取り扱います。

自己学習

この科目を理解するためには、東西両医学の基礎的な知識を必要とします。このため、本教科において十分な学習成果を上げるためには、他の教科の知識を十分に修得することが前提になるといえます。特に「鍼灸基礎実習Ⅰ」と「人体の機能Ⅰ」は本授業の内容と密接に関わっています。

履修上の注意

本学では、国家試験で「はり理論」および「きゅう理論」として出題される内容を、「鍼灸理論Ⅰ」と「鍼灸理論Ⅱ」とに分けて教育することとしております。したがって、カリキュラム上は独立した別々の授業科目として取り扱われますが、両者の講義内容は密接に関連しており、内容的には一連の教科であると捉えてください。

テキスト

「はりきゅう理論」(医道の日本社) 東洋療法学校協会編

参考文献

「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ」(文光堂) 矢野忠編集

「図解鍼灸臨床手技マニュアル」(医葉薬出版) 尾崎昭弘著 「鍼灸臨床最新科学」(医葉薬出版) 矢野忠、川喜田健司編集

オフィスアワー

火曜日 (12:00~13:00)

研究室

診療・研究棟4階414研究室

授業用E-mail

k.kimura@kansai.ac.jp